

# ポリオワクチン

## 知っておきたいこと

Many Vaccine Information Statements are available in Spanish and other languages. See [www.immunize.org/vis](http://www.immunize.org/vis)  
多くのワクチン情報文書がスペイン語その他の言語で準備されています。  
[www.immunize.org/vis](http://www.immunize.org/vis)をご覧ください。

### 1 なぜワクチン接種が必要ですか？

ワクチン接種を受けることでポリオを予防することができます。ポリオはウィルスが原因となる病気です。主に人から人へ感染します。感染者の糞便で汚染された食品・飲料を摂取することで感染することもあります。

ポリオに感染してもほとんどの場合は発病せず、多くの場合は目立った症状は出ずに回復します。しかし、ポリオに感染して麻痺（手足を動かすことができない状態）が出る場合があります。ポリオは一生残る障害の原因となることがあります。また、ポリオによって呼吸を行う筋肉が麻痺した場合、死に至る場合もあります。

ポリオはかつて米国で非常に流行していました。1955年にポリオワクチンが導入されるまで、ポリオは毎年何千人もの麻痺患者や死者を出してきました。ポリオ感染に治療法はありませんが、ワクチン接種により予防が可能です。

米国内のポリオは撲滅されました。しかし世界の他の地域では依然発生しています。予防接種を行って免疫を得ていなければ、ひとたび外国からポリオ菌が持ちこまれば、米国内のポリオ再発が懸念されます。全世界においてポリオの根絶が宣言されれば、ポリオワクチンの接種は必要なくなるでしょう。その日が来るまでは、子供の予防接種を続けなければなりません。

### 2 ポリオワクチン

不活化ポリオワクチン（IPV）の接種によりポリオの予防が可能です。

#### 子供

多くの場合、子供の時にIPVの接種を行わなければなりません。IPV接種は、通常生後2カ月、4カ月、6カ月、18カ月、4-6歳の間に行われます。

子供の状況（特定の地域を旅行する、またはIPVを混合接種として受ける場合など）により、接種スケジュールが異なる場合があります。詳しくは医師にお尋ねください。

#### 成人

ほとんどの成人はすでに幼少期に予防接種を済ませているため、IPV接種は必要ありません。しかし、成人でも以下のようなポリオ感染の危険がある場合には、ポリオワクチン接種を検討する必要があります：

- 特定の地域を旅行する場合、
- ポリオウィルスを扱う可能性のある検査室職員、
- ポリオ患者と接触する可能性のある医療従事者。

過去の予防接種の回数に応じて、これら高リスクの成人には1-3回のIPV接種が必要となる場合があります。

他のワクチンと同時にIPVワクチンを接種した場合のリスクは報告されていません。

### 3 ワクチン接種を避けなければならない場合

以下に当てはまる場合は、ワクチン接種時に担当者にお伝えください：

- 何かに対して生死に関わる強いアレルギーがある場合  
今までにIPVワクチン接種後に生死に関わるアレルギー反応が見られた場合、または、ワクチンの成分に強いアレルギーがある場合には、ワクチンの接種を控えるよう勧められる場合があります。ワクチンの成分についてさらに詳しい情報が必要な場合、医師にご相談ください。
- 気分が優れないとき。  
風邪などの軽い病気にかかっている場合、本日のワクチン接種はおそらく可能です。中程度から重い病気にかかっている場合は、おそらく回復するまで待たねばなりません。医師の診断を受けてください。

### 4 ワクチンの副反応のリスク

薬の副作用と同様に、予防接種にも副反応が見られる場合があります。これらの症状は通常軽く、自然に治まりますが、深刻な反応が見られる場合もあります。



IPV接種部分の痛みが見られる場合があります。IPVワクチン接種による重大な問題は報告されておらず、ほとんどの場合に問題はありません。

接種後のその他の問題としては、次があげられます：

- 予防接種などの医療処置を受けた場合、気を失う場合があります。15分程度座る、または横になることで失神を避け、転倒してけがをすることが防げます。目がくらんだり、視野に変化があったり、耳鳴りがする場合は医師に知らせてください。
- 接種後に通常想定される痛みよりも強く長く続く肩の痛みを感じる場合があります。これらが見られる場合は非常に稀です。
- どのような薬も強いアレルギー反応を引き起こす可能性があります。ワクチン接種によるこのような反応は非常に稀で、100万回に1回程度で、接種後数分-数時間で発生するものとされています。

他の薬と同様、ワクチン接種が深刻なけがや死亡の原因となる可能性は非常に低くなっています。

ワクチンの安全性確認は常に行われています。詳細は[www.cdc.gov/vaccinesafety/](http://www.cdc.gov/vaccinesafety/)をご覧ください。

## 5 重度の問題があった場合には？

どのようなことに注意せねばなりませんか？

- 強いアレルギー反応・高熱・行動の変化などがなければ注意して観察してください。

強いアレルギー反応として、蕁麻疹・顔と喉の腫れ・呼吸困難・心拍増加・めまい・虚弱などがあげられます。これらの症状は、接種後数分から数時間後に現れます。

何をすべきですか？

- 強いアレルギー反応その他の緊急事態と考えられる場合には、救急車(9-1-1)を呼ぶか最寄りの病院で受診してください。それ以外の場合は、かかりつけの診療所に連絡をしてください。

その後、アレルギー反応をワクチン有害事象例報告データベース (VAERS) へ報告する必要があります。担当医師に報告義務がありますが、VAERSのウェブサイト[www.vaers.hhs.gov](http://www.vaers.hhs.gov)で、または電話1-800-822-7967での自己報告も可能です。

VAERSでは医療に関する診断は行いません。

## 6 全米ワクチン被害補償プログラム

全米ワクチン被害補償プログラム (VICP) は、特定のワクチンで被害を受けた人々を救済するために設けられた連邦政府のプログラムです。

ワクチン接種による被害の疑いがある場合、電話1-800-338-2382またはVICPのウェブサイト[www.hrsa.gov/vaccinecompensation](http://www.hrsa.gov/vaccinecompensation)でプログラム内容を確認し、補償請求を提出することができます。補償請求には提出期限があります。

## 7 より詳しい情報は？

- 医師にお尋ねください。ワクチン添付文書やその他の情報源について助言を受けることができます。
- お住まいの地域か州の保健局に連絡ください。
- 疾病対策センター (CDC) にご連絡ください：
  - 1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO) まで電話か、
  - CDCのウェブサイト[www.cdc.gov/vaccines](http://www.cdc.gov/vaccines)をご覧ください

Vaccine Information Statement - Japanese  
**Polio Vaccine**

7/20/2016

42 U.S.C. § 300aa-26

Office Use Only



Translation provided by the Oregon Health Authority